
異端者

朝霧幸太

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異端者

【Nコード】

N9301P

【作者名】

朝霧幸太

【あらすじ】

ショートストーリーですので、あらすじは記しません。

その店には、初めて入った。

いつもなら駅を降りてから馴染みの店で夕食を取るのだが、残業に手間取って遅くなったので、今回は電車に乗る前に、駅にほど近い居酒屋の暖簾をくぐったのだ。

「久美ちゃん！ ビールと枝豆の追加ーっ」

「はい」

客からの注文に小気味よく反応して若い娘の声が響いた。

「こっちは梅酎とシシヤモね」

「はい」

そんな声が飛び交い、数坪の店内は賑わっている。店の右奥では野球中継の終盤戦のようだ。店員らしい久美ちゃんは目鼻立ちのハッキリした器量で、可愛らしい声の持ち主だ。

この店の人気は、きっと彼女の人気と共にあるのだろう。

もしかしたら久美ちゃんは、この店の店主の娘で、文字通りの看板娘なのかも知れない。

その事を訊いてみたい気もするが、初めて入った店で、いきなり

では不審を買う恐れがある。次の機会を待とう。

僕は久美ちゃんにビールと焼き鳥を注文してから、携帯を開き、不要なメールの削除作業に取りかかった。

「おーっ！ やったやった逆転だ！ やりよったーっ」

不意に店内の客が総立ちになり、歓声が上がった。野球中継のテレビの音量も上げられている。

「おい、兄ちゃん！ どないしたんや？ 元気ないやないか？」

「あつ、いえ普通ですが」

「なに言ってるのや！ 阪神の逆転勝利やで。嬉しくないのんか？」

「あつ、いえ。僕は巨人ファンですから」

「なにーっ！ 兄ちゃん喧嘩売りに来とんのんか？ 看板に阪神フアンの店って書いてあるやろ」

その時、僕は、その場に決して居合わせてはならぬ、完全なる異端者だったのだ。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9301p/>

異端者

2011年1月9日01時37分発行